

知事と区市町村長との意見交換会(小笠原村)

令和2年11月4日(水)

17時25分～17時45分

○**行政部長** 意見交換を始めさせていただきます。

最初に知事からお願いをいたします。

○**知事** 都庁まで御足労いただいております。今日は敬意を表しまして、担当の行政部長小笠原でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

特に島にとっては、コロナの問題は本当に不安そのものに関わるということで、いろいろおがさわら丸でいらっしゃる方々の工夫もさせていただいたところがございますし、また、いざといった時は対応をしっかりと整えていたところでもあります。

ウィズコロナの時代にどうやって生きていくのか大きな課題でございますし、また、都庁としましても、今、構造改革を徹底してやろうということで進めております。

新しい日常、サステナブル・リカバリーということをベースに、長期戦略を策定しているところです。

オール東京でこの難局を乗り越えていきたい、また、新しい日常をともに作っていききたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○**行政部長** それでは森下村長、御発言をお願いします。

○**小笠原村長** まずコロナのことにしましては、知事のリーダーシップの下、遠距離航路であります私どもの水際対策として、PCRを実施していただいたことに大変感謝を申し上げたいと思います。

PCR検査をしても、残念ながら感染者が出てしまいました。しかし、これはやはり完全に封じることができないという、一つのいい例にもなったと思います。

感染者が出た時に、村内でどういうふうに対処をしていくのか、事前にいろいろシミュレーションをしたものを皆さんの協力の下に、何とかそれ以上感染者を出すことがなかったということに、一安心をしたところがございます。

その上で本日、御要望でございますけれども、やはり短期的には第一にコロナ対策を、島の方では住民の緊急生活支援とか、各産業における支援とか、それから医療関係のことに対する支援ですとか、感染者が出た場合にどのようにその方達を隔離していくのか、地元の協力を得てということの予算措置等、東京都に大変な御支援をいただいているのですが、引き続き来年も脆弱な村政運営を考えますと、その辺の支援、予算も含めて、よろしくお願ひを申し上げたいと思います。

そして二つ目に返還50周年に知事には現地を見ていただきましたが、何よりも私どもの嬉しいことの一つであります子供が、大変小笠原、父島、母島を含めて多ございます。

母島の方は、既に保育園の建替えを現在進行形でございます。これは高台に移しまして、いざという時の避難施設に合築という形で考えておりまして、その工事が進んでおります。

父島におきましては、昭和48年に建てた小・中学校ということでございまして、これのまず建替え。現在計画になって進行中ですが、これらの小笠原特別措置法（※小笠原諸島振興開発特別措置法）の中でやっているわけですが、大変なお金が掛かってしまっている。

様々なことを行政としてもやっていかなければいけない中で、この負担は大変大きなものでございますので、引き続きその予算の振興法の中での確保につきましては、東京都にも村と一緒に御協力をお願いして、将来の小笠原を担う子供たちのために、何とか素晴らしいものを作りたいと。

また、小笠原が、そうして1,000キロ離れている島が元気だということは、東京都が今、知事の肝いりでやっております宝島という意味でも、大きな発信になるものと考えております。

中長期的にはやはり航空路のことでございます。将来の環境に配慮をしながらということで、新しい道筋を示していただきました。

また、国境離島と併せて、知事には精力的に国の方も回っていただいたと伺っております。

これらのことを、やはりいざという時の防災対策、そして安全保障、その上で村民の安全・安心の確保という観点から、これが着実に進むように、是非お願いをしたいというところでございます。

どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは知事からお願いをいたします。

○知事 今、データを見ておりました。小笠原村で待機児童2つ書いてあって、子供さんが増えているという、その証左かと大変喜び。待機児童を減らしたいんですけども、小笠原が増えているというのは、逆に嬉しいなと思っております。

若い世代が多くて活気ありますね。また、村民の方々、安心して暮らしていただく環境づくりというのは、若い方々を惹きつけるものがあるかというふうに思います。

そういう中で国境離島ということから、特に小笠原については一つ担当の部署を作りましたので。彼はその上ですけども。

○小笠原・国境離島担当部長 はい。

○知事 こちら、担当でございますので、よろしくお願いいたします。

それから先ほどの施設の老朽化の問題でございますけれども、村長のお話ありましたように、特措法をベースにしながら振興開発については、国庫補助が重要な役割を果たすということで、必要な財源の確保について国へ提案・要求をしていきたいところです。

小・中学校や保育施設については、着実に整備が進みますように、これからも国に対して強く働きかけを行ってまいります。

航空路については御承知のとおりで、審議会（※小笠原航空路協議会）の方で審議していただいて、そしてまた環境に対してのことについては、また必要なところとの連携を進

めることによって、念願の航空路が出来ますように、進めてまいりたいと考えております。

○副知事 それでは私の方からも一言。

今回のコロナ禍は、市町村財政に大きな打撃を与えていると認識しております。

特に小笠原村の場合は、地理的条件等から他の自治体にはない、また新たな財政負担というのも生じているというふうに認識しております。

東京都ではこれまで総額 100 億円の特別交付金の交付でありますとか、市町村総合交付金の 6 月概算交付額の引き上げ等、市町村の財政支援に取り組んできたところでございますが、今後も村の財政状況を踏まえつつ、市町村総合交付金等によりまして、適切な支援に努めてまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 それでは森下村長の方から、今のお話を受けていかがでしょうか。

○小笠原村長 大変こちらの思い、それから置かれた状況、勘案していただいているということで、一安心したところでございます。

それから先ほどは、要望と違いまして、私ども光ケーブルを入れてから、このデジタル化ということについては大変機能をしているというふうに思っております。

それが若い方たちが居つく原因、特に小・中学校につきましては、国の方針もあります。都の方の方針もございまして、これが順調に進んで、子供が新しい時代に対応していけるように、また、1,000 キロ離れても光があることによって都会と変わらぬ、また、生活ができるというようなところをまた発信できればと思っておりますので、そちらの方もどうぞよろしく願いをできればと思っております。以上でございます。

○行政部長 どうもありがとうございます。

それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 東京の島々は本当に宝物です。宝を磨いて、より島の皆さんにとっても、また、旅行者の皆さんにとっても魅力ある所にしていきたい。そのためにも、いろいろ連携を取りながら進めていきたいと考えております。

今日承りました件については、特に国の方に要望でございますけれども、また改めて伝えてまいります。

今日はありがとうございました。

○小笠原村長 こちらこそ、ありがとうございます。

直接こうしてお話ができよかったです。

○知事 もうずっとオンラインですもんね。

○小笠原村長 はい。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは以上で終了いたします。